

ひだまりサロン
20年のあゆみ

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

ごあいさつ



社会福祉法人
調布市社会福祉協議会
会長 関森 正義

このたび、「ひだまりサロン事業」が、おかげさまで20周年を迎えることができました。これもひとえに、長きにわたりこの活動を支え、ご参加くださった市民のみなさん、ご支援・ご協力いただいた関係機関のみなさんのおかげであり、心より感謝申し上げます。

「ひだまりサロン事業」は、前身となる「ふれあいサロンモデル事業」と「ミニデイサービスモデル事業」を統合し、平成17年度に14のサロンでスタートしました。以降、「誰もが地域で孤立することなく、いきいきと暮らし続けられるよう、気軽に集える交流の場をつくりたい」との想いに賛同いただいた多くのみなさんにより活動の輪が広がりました。現在では、90を超えるサロンが身近な各地域で様々な活動を展開しており、この20年間で延べ37万人を超える方々が活動に参加していただきました。

私たちは、これからも「いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして」の基本理念のもと、この交流の場が地域の心の拠り所であり続けるよう、市民や関係機関のみなさんとともに活動を推進して参ります。引き続き、本事業へのご参加、どうぞよろしくお願いいたします。



2・3

お祝いの言葉

4~7

ひだまりサロン事業の歴史

目次

8~11

座談会

12

数字で見るひだまりサロン

13

ひだまりサロン事業に携わったみなさんより

お祝いの言葉



調布市長
長友 貴樹

このたび、ひだまりサロン事業が創設20周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

近年、地域におけるつながりが希薄化する中で、ひだまりサロンは現在市内90か所以上で展開され、住み慣れた地域で誰もが参加できる住民主体の交流活動の場として、市の地域福祉の推進において重要な役割を担っていただいております。

市は、これまでも地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員を市内福祉8圏域の全てに配置するなどして、ひだまりサロンの立上げ・運営を支援して参りました。今後も、調布市地域福祉計画に基づき、住民主体の地域における支え合いの仕組みづくりを進めていく中で、調布市社会福祉協議会が策定した地域福祉活動計画とも更なる連携を図って参ります。

結びに、ひだまりサロン事業に関わる全ての皆様のご尽力に対し、心から敬意を表しますとともに、事業の益々の発展と関係各位のご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。



調布市議会議員
宮本 和実

ひだまりサロン事業が20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

現在、ひだまりサロン事業は市内で約90の団体が、それぞれ工夫を凝らした活動を展開されており、地域住民にとって、なくてはならない存在として活発な交流が図られております。

これまでの間、地域住民相互の支え合いによる互助、共助の基盤づくりが推進され、確固たる実績を残されてこられたのは、地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員をはじめとした、ひだまりサロン事業を支えてこられた多くの皆様の御尽力の賜物であり、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

20周年を一つの節目として、ひだまりサロン事業が、これからも住み慣れたまちで一人一人が孤立することなく、お互いに支え合う交流の場として、さらなる飛躍、発展をされますことを祈念いたしまして、お祝いの挨拶といたします。



調布市民生児童委員協議会
会長 田中 茂和

ひだまりサロン事業が20周年を迎えますこと、謹んでお祝い申し上げます。

さて、ひだまりサロンとは誰でも簡単に参加できる地域の交流の場です。

つながり、見守り、広がり、身近な場所があることが、地域の支えとなっております。

我々民生児童委員も地域共生社会を目指し、地域の「パイプ役」として日々活動を行う中で、ひだまりサロンの存在につきましては、大変心強く感じております。

調布市民生児童委員協議会は、調布市社会福祉協議会と協力して、いつまでも、住み続けたいと思う、まちづくりを目指して市民の皆様や関係者の参加と協力を得て、住民一人ひとりが互いに支え合い、誰もが安心して、生き生きと暮らすことができる「福祉のまちづくり」を目指して様々な活動をしてまいります。

結びに、ひだまりサロン事業のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いの挨拶とさせていただきます。



調布市地域包括支援
センター連絡協議会
会長 竹内 悦子

このたびは、ひだまりサロン事業20周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。この20年間のあゆみは、誰もが安心して暮らせる地域を目指すみなさまの熱意と努力の賜物でしょう。スタッフのみなさま並びにボランティアの方々による心温かく力強いご支援に対し、改めて感謝と敬意を申し上げます。

ますます高齢化が進み、高齢者の孤独・孤立が懸念される中、生きがいや交流の場を提供するひだまりサロンの存在は、今後さらに重要な位置を占めていくことでしょう。これから30周年、40周年を迎えるごとに更なる発展を遂げられていくことを願ってやみません。

これからも地域住民主体で、高齢者の方々が安心して集い、語り、支えあえる場所として、地域に根差した活動を継続していただきたいと思います。地域包括支援センターとしても「ひだまりサロン」と連携しながら、地域全体で支えあえる環境づくりを進めてまいります。

ひだまりサロンの歴史

Hidamari salon's History

1994(H6)

○第1次調布市地域福祉活動計画策定。
「だれもが参加する」「ともに考える」「みんなで創る」を基本目標に、ふれあいサロン(※1)の設置が計画された。

1998(H10)

○染地地域で住民懇談会を開催。その後、住民福祉活動グループ「染地かいわい」が発足した。

1999(H11)

○第2次調布市地域福祉活動計画策定。
「小地域における福祉のまちづくり」等を柱に、ふれあいサロンの充実を目指した。

2001(H13)

○ミニデイサービスモデル事業(※2)を開始。



染地かいわい

染地に在住の方ならだれでも来られる通いの場。茶話会、ちょっとしたお手伝い、情報誌なども作成していた。



富士見お茶とおしゃべりの会

ミニデイ ひだまりで楽しくお食事しませんか!!
ひだまりへのお誘い

国領地域・小坂邸にて開催

外出の機会や話し友達の少なくなった高齢者の方が楽しく集い、語り合える・安心して過ごせる所が国領「ひだまり」です。

対象/65歳以上の方、自力で通える方
内容/おしゃべり・歌・ゲーム、その他
会費/1回500円(昼食・お菓子代)
会場/国領町

開催日 11月14日・28日(金)
12月12日・26日(金)
毎月2回(2・4)(金曜日)
時間/午前10:30~午後2:30分

ボランティア募集!!
みなさんボランティアに
参加しませんか?

●お問い合わせ
調布市社会福祉協議会 TEL 0424-81-7693
何んでもご相談ください。

国領ひだまり

※1 ふれあいサロン (ふれあいサロンモデル事業)

市民の住宅等を定期的に提供していただき、概ね60歳以上を対象として、お茶を飲みながら楽しい午後のひと時を過ごし、年齢や世代を問わず無理なく、楽しく、語らう仲間づくりを推進。地域の中でひとり一人がお互いに支え合い、助け合って、健康で楽しく安心した生活が送れるように実情に合わせた活動を、ボランティア・各地域団体の協力を得て取り組んだ。

「染地かいわい」「たま川かいわい」「富士見お茶とおしゃべりの会」「緑ヶ丘おしゃべりサロン」「西部お茶とおしゃべりの会」等

※2 ミニデイサービスモデル事業 (2003年に「ミニデイサービスひだまり」に名称変更)

外出の機会が減った65歳以上を対象に、歩いて通えるご近所で楽しくつどい、語り合え、安心して過ごせる「たまり場」が市内にたくさんつくられるように、市民の自宅や企業、自治会の集会場などをお借りして、ボランティアグループの力で自主的に運営されるしくみを提案した。

「入間ひだまり」「若葉ひだまり」「国領ひだまり」「深大寺元町ひだまり」「佐須ひだまり」「東町ひだまり」等

ここからひだまりサロン事業スタート(H17)

2005(H17)

○「ひだまりサロン事業実施要綱」を制定し、従来から活動を展開していた「ふれあいサロン事業」と「ミニデイサービスひだまり事業」を統合。初年度は14団体が活動した。

2006(H18)

○立上げスタッフの名称を応援スタッフに変更。
○5月にサロンスタッフ交流会を開催。調布市高齢者支援室や地域包括支援センターにも参加していただき、地域内での連携構築を図った。
○サロンを周知するため、リーフレットを作成した。

2007(H19)

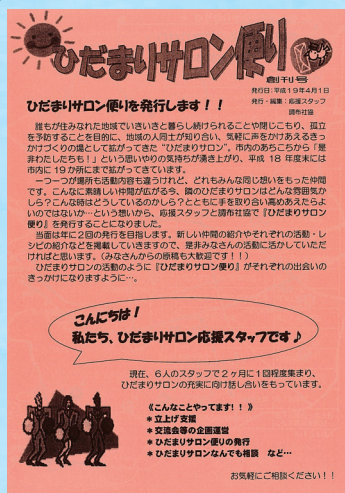
○サロンスタッフのネットワークづくりと情報共有を目的に、「ひだまりサロン便り」を発行(年2回)。
○161人を対象に、団体・参加者アンケート調査を実施。

2009(H21)

○農地や銭湯を利用した新しい形のサロンが誕生。



ふくしの窓 H16.9



ひだまりサロン便り



農園サロンののはな



“ひだまりサロン”は、
ご近所同士が気軽に集い、お茶やお食事をしながら、おしゃべりや趣味活動など楽しい時間を過ごすところです。あなたもはじめてみませんか？

生活のメリハリができて健康！
子育てしている仲間、生活の支えあいや見守りが生まれる。
お集まりのお茶会、ご近所にお友達ができてうれしいわ。

こんな効果が！！

- ★ご近所同士が知り合うきっかけ。
- ★日常的な支えあいや見守りが生まれる。
- ★引きこもりを防止します。
- ★いざという時支えあえる関係作りにつながります。

はじめてみたいと思ったら…

事前研修を受けてみよう！
「自分たちだけで始めるのは不安だわ…」
事前研修では、スタッフと共に活動すること、お茶の淹め方、おしゃべりのコツなど、活動するための知識や立上げのお手伝いをします。実際に自分が始めるの第一歩です。

活動の場を確保しよう！
立上げに役立つ仲間同士で、「活動の場を確保しよう！」という思いを共有し、活動の場を確保しよう。

グループを組もう！
グループ名、活動日時、場所などを決めて行います。
お茶・お食事を準備して、必要な道具などをそろえます。
グループなどでみんな集って楽しもう。

OPEN！

活動の場を確保しよう！
活動の場を確保しよう！
活動の場を確保しよう！

調布社協がひだまりサロンのお手伝いをします！！

- ◎活動費などの助成をします。
活動費、会費補助金、立上げ費などを助成します。
- ◎情報提供をします。
活動スタッフ、ご近所や地域会や研修会を開催します。ひだまりサロン/居土の交流のきっかけづくりを行います。
- ◎保険に加入します。
活動にかかわるスタッフのボランティア保険に加入します。費用は社協が負担します。

お気軽に、お問合せください。

スタッフ・会場提供者募集！
活動の場を確保しよう！
活動の場を確保しよう！

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会
〒142-0005 調布市調布2-4-7-1
TEL: 042-481-7003
FAX: 042-481-5115
E-mail: chofu@chofu-shikwa.or.jp



2014(H26)

○それまで高齢者中心のサロンが多かったが、子育て世帯の交流を目的としたサロンや介護者が集うサロンなど、多種多様なサロンが誕生した。

2017(H29)

○より身近な地域でサロン同士のつながりや活動を広めていくことを目的に、地域ごとにサロン交流会を開催した。

2019(H31・R1)

○サロンのリーフレットを刷新した。
○新型コロナウイルス感染症が広がりを見せ、活動を自粛するサロンがあった。

2020(R2)

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各サロンへ活動自粛を依頼。屋内や人数制限のあるサロン等は活動を休止。サロン交流会も中止となった。
○緊急事態宣言解除後も、活動における留意事項をまとめた案内を作成し、各サロンに周知した。
○活動を自粛する中、スタッフが参加者の自宅を訪問したり、広報誌を作成したりするサロンもあった。
○コロナ禍での活動の様子や工夫を伺うため、「みんなでつながろう ひだまりサロンアンケート」を実施した。



ひだまりサロン交流会

気軽に！楽しく！ご近所で！
ひだまりサロン
～みなさんの大切なおもい～

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

ひだまりサロンって？

ひだまりサロンとは、だれでも気軽に参加することができ、参加者みなさんでつくる地域交流の場です。それぞれのサロンが工夫を凝らした活動を通して交流しています。

～市内で活動しているみなさんの声～ 活動者にインタビュー

参加者Aさん

子どもが居る場所を探して、見つかったひだまりサロンですが、少人数で活動がしやすい場所を希望し、また、ご近所で知り合いが居るか、また、子育てができるようになりまし。



スタッフBさん

『主人が定年退職してから外に出ることが減った』という近所の方の声をきっかけに、活動が簡単でやりやすい場所を希望し、ひだまりサロンを立ち上げました。少人数、ご近所で知り合いが居るか、また、子育てができるようになりまし。



～みなさんのおもいを地域のちからに～

- **つながり**
近所に知り合いができることで、家に閉じこもりがちだった方も外出するきっかけ。
- **お母さん**
日常の悩みや子育ての悩み、悩みがあったときには互いに支え合う関係性。
- **ひろがり**
身近な居場所が地域の支えに。



社会福祉協議会がサポートすること...

- **情報提供をします**
・サロン活動を知りたい、始めたい、強めて参加したい！
・近くでやっている活動を知りたい！
・活動の場を知っている、何かイベントはないか...など
- **地域に根付いた活動を長く継続していただけるようサポートします。**
- **保険へ加入しています**
ひだまりサロン事業は、調布市社会福祉協議会が加入している保険の対象となります。
- **活動費などの助成をします**
サロン活動に必要な費用の一部を助成します。

社会福祉協議会は、みなさんの活動を応援します。
社会福祉協議会、みなさんの活動を応援します。
社会福祉協議会、みなさんの活動を応援します。

社会福祉法人
調布市社会福祉協議会
〒182-0028
調布市小島町2-47-1
電話：042-481-7808
FAX：042-481-5115





2021 (R3)

- コロナ禍をきっかけにリモート開催するサロンが誕生。
- サロン交流会を中止。
- 各サロンへ活動状況のアンケートを実施。コロナ禍での活動に関する悩みが多くあがったことから、調布市医師会の協力を得て学習会を開催した。

2022 (R4)

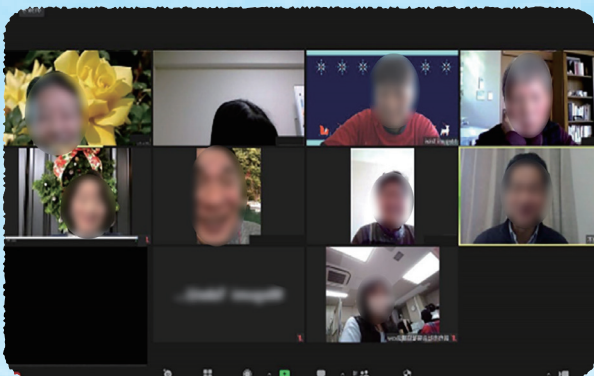
- 交流及び情報共有を目的に、3年ぶりにサロン交流会を開催した。「つながりの大切さを考える」をテーマに、延浄寺住職に講演をしていただいた。
- 引き続き活動への参加を自粛されている方もいたため、自宅訪問や電話連絡等、個別対応を行っているサロンもあった。
- 「調布市福祉まつり」の社会福祉協議会ブースにおいて、サロンの事業紹介を行った。

2023 (R5)

- 3密に注意するため、午前・午後の2部制で活動内容別のサロン交流会を開催。活動内容が近いサロン同士だからこそその活動のヒントや工夫を共有し合った。
- 「調布市福祉まつり」の社会福祉協議会ブースの運営を、サロン応援スタッフ中心に担った。

2024 (R6)

- サロン交流会において、初めてサロンスタッフによるシンポジウムを開催。各サロン立ち上げの経緯、これまで培ってきた運営や交流の工夫、活動を継続するうえでの苦労等をお話いただき、参加者同士で共有した。



みんな DE ネットサロン
※インターネットを活用して
オンラインで集まる



ひだまりサロン学習会



調布市福祉まつり

ひだまりサロン事業20周年記念

座談会

地域の方々に愛されてきた「ひだまりサロン」が今年で20周年を迎えました。これまでの思い出やサロンが果たしてきた役割、そしてこれからの未来について、サロンスタッフの方々とともに語り合った座談会。笑顔と感謝にあふれる時間を少しのぞいてみませんか？

参加者



川久保 孝子 氏

(子育てママランチうさぐんち)



小島 嘉子 氏

(野川サロン)



山内 聡 氏

(スマホを楽しむ会)



四家 綾子 氏

(ひだまりサロン応援スタッフ)

司 会

前田 雄太 (調布市社会福祉協議会)

柴垣 涼子 (調布市社会福祉協議会)

自己紹介

司 会：今日は、ひだまりサロン事業20周年記念座談会にお集まりいただきました。みなさんの自己紹介と、携わっているサロンの紹介をお願いします。

川久保：『子育てママランチうさぐんち』を始めて8年になります。また、サロン応援スタッフ、民生児童委員をしています。

山 内：月2回、『スマホを楽しむ会』を開催しており、3年目になります。みんなで一緒にスマホを学び、楽しんでいます。

小 島：3年前より、10の筋力トレーニングを始めました。その中でおしゃべりの場を求める声があったため、『野川サロン』を立ち上げ、スタッフの一人として携わっています。楽しく活動しています。また、民生児童委員でもあります。

四 家：ひだまりサロン事業の立ち上げメンバーの一人です。みなさんがこの活動を続けてくださっていることに感謝しています。現在は、サロン応援スタッフと、参加者として『2・4火曜会』に行っています。

ひだまりサロンとの関わり

司 会：サロンに携わるようになったきっかけを教えてください。

四 家：私は以前、『われもこうの会』という、自宅を開放してお茶や食事をしたり、話をしたりする活動をしていました。その活動を知った調布社協の職員から、「こういった活動を広げたい」と声がけされたことがきっかけで、ひだまりサロン事業の立ち上げに参加しました。

山 内：『われもこうの会』とは、どのような活動だったのでしょうか。

四 家：地域福祉センターで実施していた高齢者会食の参加者が、食事が終わるとすぐ帰ってしまうのを見て、「みんなでおしゃべりしよう」と友人と始めたのが最初です。高齢者会食の参加者に声をかけたところ、5人ほど残る方がいて、そこからグループができました。地域福祉センターの部屋を取るのが難しかったのですが、「自宅を使って」と言ってくださる方がいたので、そこで活動が始まりました。

山 内：まさに原点ですね。私もそのおかげでここにいられるので、感謝です。

小 島：私はひだまりサロン事業の前身である、ふれあいサロン（P4参照）『富士見お茶とおしゃべりの会』の立ち上げに携わりました。その後、別の地域に引っ越しましたが、約10年前に「この地域にもサロンがあるといい」と地域の人に言われたのが、ずっと頭の片隅にありました。『野川サロン』を始める際に、スタッフとして声がかかったので、参加しました。

司 会：『富士見お茶とおしゃべりの会』に携わることになったきっかけは、何だったのでしょうか。

小 島：富士見地域福祉センター内にボランティアコーナーが設置され、ボランティアコーディネーターとつながったことで、活動の立ち上げメンバーとして携わることになりました。

山 内：会社員として海外で働いていた際、会社との距離を感じていました。日本に帰ってから、会社に依存しすぎる環境よりは、もう一つどこかに所属するような形をとりたいと思い、活動先を探しました。図書館でスマホを教えるボランティア募集が掲載された広報紙を見つけ、これならできるかもしれないと思いました。実際に電話するまで2週間悩みましたが、参加して本当に良かったと感じています。

川久保：私は民生児童委員として参加した講習会で、青少年の居場所の活動をしている方の講演を聞き、感動したことがきっかけです。38年間保育園で働き、退職後に児童館の相談員をしている中で、子育て中のママの悩みを聞きました。彼女たちがホッとできる場所をつくりたいと考えていたところ、ある時ひだまりサロンについて教えてもらい、活動費の助成もあったので、「これならできるかも」思い、自宅で活動を始めました。食事や人とのつながりを通じて笑顔になれる場を提供できればと願っています。

司 会：『子育てママランチうさぐんち』で印象的だったのは、参加者が「自分の実家は遠いけれど、調布に実家と思える場ができた」と話していたことです。



印象に残っていること

司 会：今まで活動してきた中で、印象に残っているエピソードや、嬉しかったことがあったら教えてください。

四 家：『われもこうの会』はサロンには登録していませんでした。しばらくして、会場だったお宅が売却されることになり、解散しようと思っていました。しかし、参加者の方々から「明日からどこに行けばいいの」との声があがり、その時に「自分の家でやろう」と言ってくださった方がいたので、サロンに登録して、新たな会場で行うことができるようになりました。今も『ひだまり菊野台』として続いています。参加者のみなさんにとって大切な場になっていたことを実感し、やってきて良かったと思いました。

山 内：『スマホを楽しむ会』では、最初は電話以外の機能は使っていない方も多かったのですが、最近は LINE で連絡を取り合うようになりました。体調や気候で参加できない方も、LINE を通じて自宅から参加することがあります。テクノロジーの力でつながれることがとても嬉しく、可能性を感じています。

司 会：その場に行けなくても、「つながっている」と思える安心感がいいですね。

小 島：長年、「サロンをやってほしい」と言ってくれた方がいて、私が民生児童委員を務めている間にできて良かったなと思います。その方は、今もサロンに来てくれています。

川久保：子育て中のママが「幸せ～」と言いながら食事をする姿や、子どもたちの成長を見守れることが幸せです。地域で「調布の娘や孫」とつながりが増え、お母さん同士もつながっていく様子を見るとやって良かったなと思います。

活動の周知方法

司 会：サロンの周知は、どのようにされていますか。

川久保：近隣の児童館にチラシを貼り、参加者に「他の方にも声をかけて」とお願いしています。

山 内：地域福祉センターにチラシを貼ったり、口コミで広めていただいたり、社協の広報紙「ふくしの窓」や市民活動支援センターの広報紙「えんがわだより」に掲載しています。

小 島：活動内容を考え、食事や勉強会を開催する際にはチラシで発信することで、みなさんが集まってくれています。

四 家：立ち上げ当初は、30 か所までが大変でした。サロン応援スタッフとして、最初は市内を歩き回って広報していましたが、30 か所を超えると地域の方から「やってみたい」との声が増えました。最初の1 か所は本当に苦労しましたが、それが今につながっています。

司 会：サロンの数が増えて各地域で活動していることで、認知度が高まったり、その活動を見て「自分もできるかも」と思ってもらえたりするようになったと思います。

コロナ禍の影響

司 会：人と人とが交流するサロンにおいて、コロナ禍は大きな影響がありました。どのように対応していましたか。

川久保：コロナ禍の間はお弁当で対応したり、参加者の枠を減らしたりしました。中止にしたこともあります。

四 家：一旦休止して、その後再開できなくなっているところがあったんですね。

司 会：令和元年度は 105 か所あったサロンが、令和 2 年度は 97 か所にまで減りました。解散しなくても、活動の自粛を余儀なくされたところも多かったです。一方で、インターネットを活用してオンラインで集まるなど、工夫を凝らした活動をしていたサロンもありました。

ひだまりサロンの意義

司 会：地域のつながりが希薄化し、孤立している人も少なくありません。サロンが地域にあることの意義について、感じていることはありますか。

四 家：参加者が喜んで来てくださることが、サロンの必要性を証明していますよね。情報交換やおしゃべりでつながることができる、素晴らしい場だと思います。

川久保：自分自身が楽しいということもあるのですが、人とつながることは楽しく、幸せです。お母さん同士だけでなく、世代を超えたつながりが広がります。

山 内：つながる場は、今の世の中だとお金が絡むことが多いですが、お金ではないつながりの場としてひだまりサロンは貴重です。また、場がないと行きたくても行けないので、場があること自体が素晴らしいと思います。

小 島：苦しさや寂しさを抱えている人がいても「サロンで一緒の方々が近くにいる」ことで安心感があると思います。私もそうです。みんなで協力して、今そこにいる一人の方に「一緒にやりませんか」と声をかけ続けたいです。



前田 山内 四家 小島 柴垣 川久保

メッセージ

司 会：最後に、みなさんにメッセージをお願いします。

四 家：興味があれば、ぜひ近くのサロンに足を運んでみてください。

小 島：おしゃべりの場を求めている方、すでにサロンに参加しているけど、他にも行ってみたいと思っている方は、ぜひ近くのサロンに行ってみてください。お待ちしております。

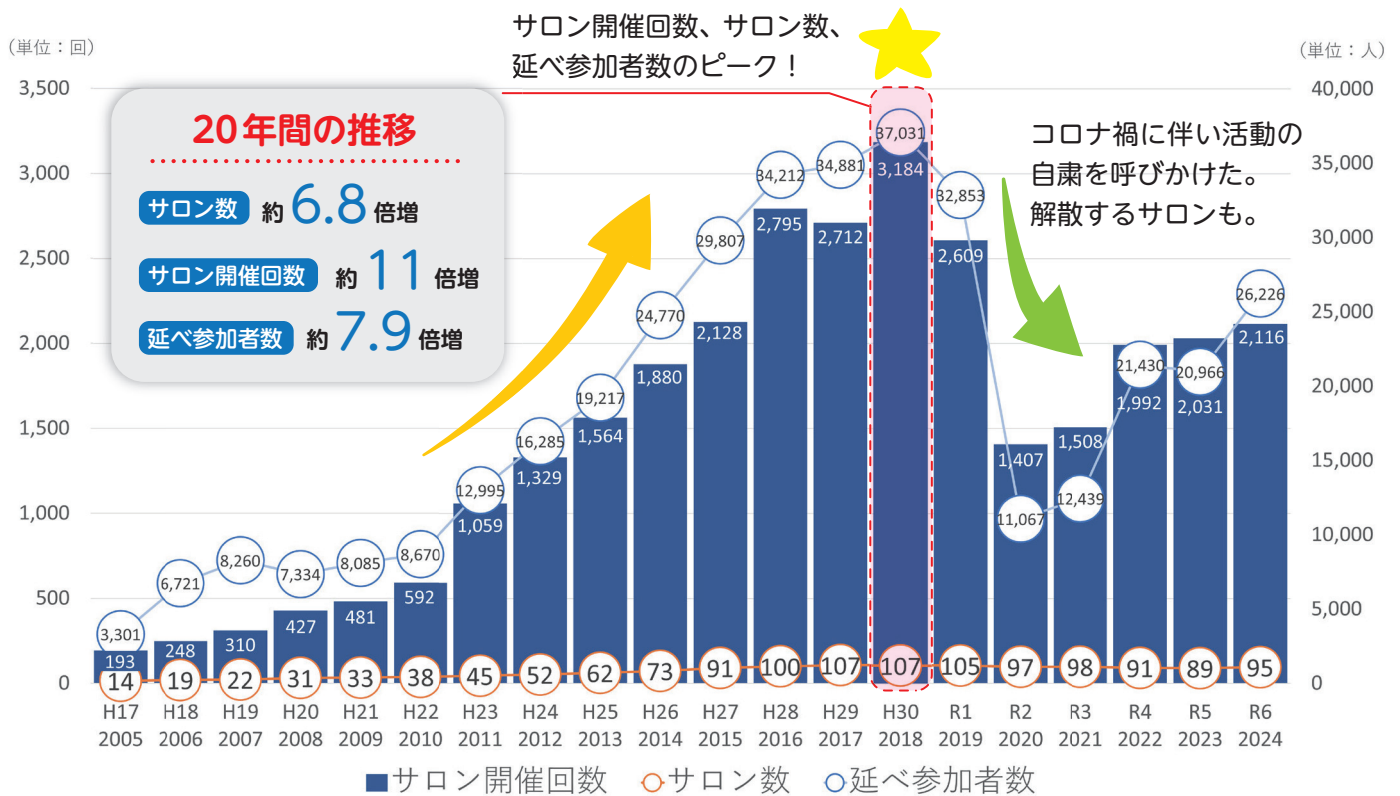
山 内：自分もそうでしたが、最初の一步はすごく勇気がいります。ちょっと余裕と興味が出てきたタイミングで、ぜひ一歩踏み出してほしいです。優しい方ばかりなので、世界が広がります。

川久保：子育てで疲れた時は、気軽に『子育てママランチうさくんち』に食べに来てください。

司 会：本日は、貴重なお話をありがとうございました。20周年を機に、初めてこのような座談会を開催しましたが、サロンが地域にとってどれだけの大事な場なのかを改めて確認することができました。調布社協としても、今後さらに活動が発展するよう一緒に歩んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

数字で見る ひだまりサロン

この 20 年で、ひだまりサロンはどのように増えてきたのでしょうか？地域の方々の想いに支えられ、20 年の間に、こんなにも広がりを見せてきました。そのあゆみをグラフで振り返ります。



- ・ 2012年度(H24)にサロン数が 50 を超える。
- ・ 2013年度(H25)に地域福祉コーディネーターが 2 圏域に配置された。コーディネーターの働きかけにより、新たに 3 か所サロンが立ち上がった。その後も、地域福祉コーディネーターの拡充や地域支え合い推進員の配置に伴い、サロン数は増加。
- ・ 2016年度(H28)にサロン数が 100 を超える。
- ・ 2019年度(H31・R1)は、スタッフの高齢化等により解散するサロンが多く、サロン数が初めて減少に転じた。年度末には新型コロナウイルス感染症をきっかけに開催回数が減少。
- ・ 2020年度(R2)は、新型コロナウイルスの感染拡大により、各サロンへ活動自粛を依頼。感染防止対策として食事等を行わない活動を試みたものの、結果として解散したサロンもあった。そこから徐々にサロン数の減少がみられるものの、2021年度(R3)から開催回数や延べ参加者数は回復傾向にある。

ひだまりサロン事業に 携わったみなさんより

ひだまりサロンへの思い

三宅 栄治さん

元ひだまりサロン応援スタッフ

ひだまりサロン事業20周年、心よりお祝い申し上げます。平成12年度に小地域見守りモデル活動として検討が始まり、平成13年度にはデイサービスを参考に、「ひだまりサロン」の前身である元気な高齢者を対象とした「ミニデイサービス活動」が誕生しました。以来、社協職員の皆さまのご尽力と、ボランティアの皆さまの真心に支えられ、地域の憩いの場として大きく育ってまいりました。このような事業にスタッフとして関わることができたのは幸いでした。

これまでの歩みに深く感謝申し上げるとともに、これからも笑顔あふれる場として発展されますよう心よりお祈りいたします。

井垣 弘子さん

元ひだまりサロン代表

社協のひだまりサロン事業が始まってまもなく、多摩川住宅□号棟内で高齢者のみまもりや支援が出来ないかと有志をつのりスタートしたのが「□号棟ひだまり」でした。

公社の集会室を使用し、自治会の協力とボランティアスタッフで手探り状態でのスタート。

スタッフの手づくりのランチで、安否確認やおしゃべりと楽しい時間を過ごしました。約18年の活動でしたが、残念なことに参加者の高齢化と共に、ボランティアスタッフの高齢化で昨年11月解散となりました。思いがけない出会いや楽しい事がありました。あと10歳若ければ再度挑戦したいと思います。多くの方に経験して欲しいです。スタートも社協が助けてくれます。

多門 晶子さん

元調布社協職員

20周年おめでとうございます。

ひだまりサロンは、地域のために何かしたいという住民の方々の思いと、応援スタッフのひだまりサロンへの思いと、担当者の地域づくりへの思いが重なり合いながら、地域おこしの一役を担い根付いてきた歴史があります。

その歴史の中で、現在活動を継続しているサロン、諸事情により継続を断念せざるを得なかったサロン、各サロンはその時々で形を変えて今に繋がっています。

今後も色々な形で、それぞれの思いが繋がっていきますようお願いしています。

小山 和重さん

元調布社協職員

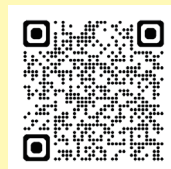
ひだまりサロン20周年おめでとうございます。調布社協がミニデイサービスの立ち上げ普及の仕組みを考えるプロジェクトを市民とともに立ち上げた時、社協を応援して、福祉を広げたいという人が大勢いることに感銘を受けました。ひだまり活動を立ち上げたい方の家にプロジェクトメンバーで説明に行くとき、「われもこの会」に関わっていた四家さんの話は貴重でした。

ミニデイは個人宅で食事と何でもありの活動内容でしたが、いつまでも続けられるとは限りません。公共施設を活用したふれあいサロン事業と合体することで活動が広がったのでしょうか。廃業した医院の家屋を会場に提供いただいて発足したミニデイひだまりの活動が今でも続いているのは嬉しいです。

ひだまりサロン 20年のあゆみ

ひだまりサロン 20年のあゆみ（ひだまりサロン事業20周年記念誌）

発 行 社会福祉法人調布市社会福祉協議会
〒182-0026 東京都調布市小島町 2-47-1
TEL 042-481-7693
FAX 042-481-5115
E-mail: chofu-co@ccsw.or.jp
発行日 令和7年9月



ホームページ



instagram



YouTube

印 刷 株式会社 内田平和堂 東京都調布市東つつじヶ丘 1-17-2